

研 究 分 野	資源評価	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	資源評価調査委託事業（底魚資源調査：マガレイ・ハタハタ以外）		
予 算 区 分	漁業調整費（委託）		
試験研究実施年度・研究期間	H17～H21		
担 当	高橋 宏和		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

適切な利用と保護を図るため、日本の周辺海域で利用可能な魚種の資源量を科学的客観的根拠に基づいて評価し、必要な関係資料を整備する。

〈試験研究方法〉

(1) 漁場別漁獲調査

八戸みなど漁協の小型機船底曳網漁業の漁場別漁獲状況を調査した。

新深浦町漁協岩崎支所の日本海ベニズワイガニかご漁業の漁場別漁獲状況を調査した。

(2) 漁獲量調査

県内 44 漁業協同組合及び 1 市場の浜伝票から調査対象魚種（ヒラメ、スルメイカ、スケトウダラ、マダラ、マイワシ、マサバ、カタクチイワシ、キチジ、イトヒキダラ、ズワイガニ、ヤナギムシガレイ、サメガレイ、ベニズワイガニ、アカガレイ、ニギス、マダイ、ホッケ、ヤリイカ、ゴマサバ、キアンコウ、ソウハチガレイ、ムシガレイ、ブリ、ウルメイワシ、ホッコクアカエビ）の月別、漁法別、魚種別、銘柄別の漁獲量を調査した。

(3) 魚体測定調査

新深浦町漁協、鰯ヶ沢漁協、外ヶ浜漁協、八戸みなど漁協、（株）八戸魚市場に水揚げされた 11 魚種（ヒラメ、スルメイカ、マダラ、キチジ、マアジ、マイワシ、カタクチイワシ、マサバ、ブリ、マガレイ、ハタハタ）の体長、体重、性別、生殖腺重量を調査した。

新深浦漁協沢辺支所ではマダラの体長を調査した。

(4) 沿岸資源動向調査

脇野沢村漁協でマダラの全長を調査し、ディスクとログを用い標識放流を実施した。

(5) 着底稚魚調査

日本海側つがる市沖でヒラメの着底稚魚分布調査を実施した。

(6) データ送付

調査結果は資源評価情報システム(fresco)を利用した。

〈結果の概要・要約〉

- ・ヒラメの漁獲量は平成 17 年以降増加し、平成 20 年は 1,176 トンであった（図 1）。
- ・マコガレイの漁獲量は 529 トンで平成 16 年以降増加傾向を示した（図 2）。
- ・新深浦漁協沢辺支所のマダラは、4 年魚と推定される標準体長 70 cm 前後のものが漁獲の主体となっていた（図 3）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

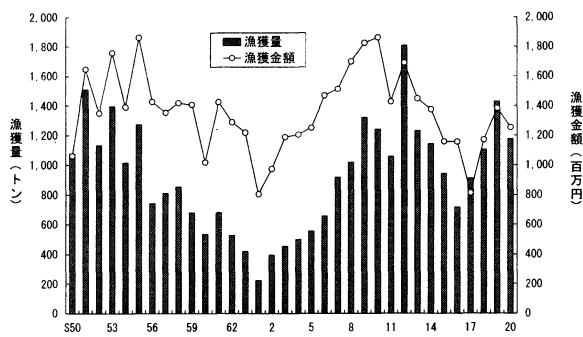


図1 青森県ヒラメ漁獲量と金額の推移

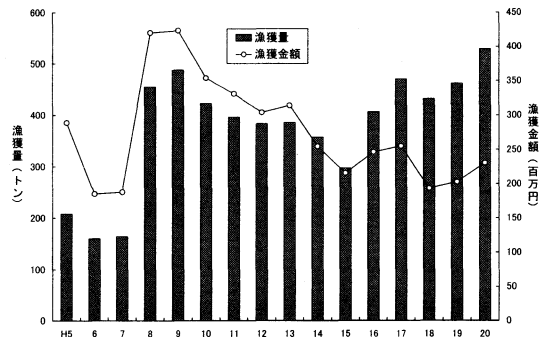


図2 青森県マコガレイ漁獲量と金額の推移

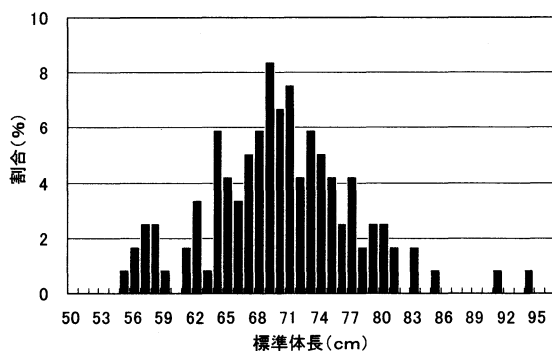


図3 新深浦町漁協沢辺支所のマダラ体長組成

〈今後の問題点〉

特になし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

漁業者、学識経験者、行政機関が参加する資源評価会議で資源水準や動向を検討し、その結果を、水産庁が「我が国周辺海域の漁業資源評価」として印刷物、インターネットで広く一般国民に公表している。